

令和8年1月 日

丹波篠山市地域公共交通会議
委員のみなさま

丹波篠山市地域公共交通会議
会 長 野 村 実

令和7年第3回丹波篠山市地域公共交通会議(書面協議)の開催について

新春の候、みなさまにおかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、今回、令和7年度地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金について、地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱等に基づき、地域公共交通会議において事業の実施状況の確認、自己評価を行い、評価の結果を運輸局に報告する必要があるがございます。

本来であれば、会議において内容をご協議いただくところではありますが、会議の開催に代えて書面協議により決議を行いたく存じます。

つきましては、ご多忙の中大変恐れ入りますが、協議事項に関する資料をご確認いただき、令和8年1月23日(金)までに、同封しております回答書にて、郵送またはファックス、直接提出等により事務局までご回答いただきますようお願い申し上げます。

記

1. 協議事項

- ・地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について

2. 提出期限

令和8年1月23日(金)

3. 提出先

下記事務局までご提出ください。

【事務局】

〒669-2397 丹波篠山市北新町4-1

丹波篠山市役所企画総務部創造都市課

担当 足立和隆

Tel : 079-552-5106 (直通)/Fax : 079-552-5665

丹波篠山市地域公共交通会議 事務局

(丹波篠山市企画総務部創造都市課) 行き (FAX: 079-552-5665)

令和 年 月 日

丹波篠山市地域公共交通会議

会 長 野 村 実 様

委員氏名 _____ 印 _____

回 答 書

令和8年1月 日付 文書にて依頼のありました「地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について」の書面協議の内容について、下記のとおり回答します。

記

承認する ・ 承認しない (どちらかに○をお願いします)

【理由・意見など】

※地域での必要性、その他交通機関による輸送の困難性を認め、申請内容に異論がない場合は「承認する」に○をつけてください。そうでない場合は、「承認しない」に○をつけていただいたうえ、その理由（意見）をご記入願います。

地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について (地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金)

<協議いただく内容>

地域公共交通確保維持改善事業による支援を受けた事業については、地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱等に基づき、各協議会自らによる事業の実施状況の確認、自己評価を行い結果を、地方運輸局に報告するとともに、ホームページ等で公表する必要があります。

本市は地域内フィーダー系統確保維持費国庫交付金(※)の対象として路線バス7系統を申請しており、こちらの事業評価について地域公共交通会議にて協議を整える必要があるため、記載内容の同意をいただくものです。

また、国からの指摘事項への対応及び軽微な変更は事務局へご一任ください。

※一般には幹線(地域間幹線バス系統や鉄道など)と接続し、地域内の移動を支える支線の役割を担うバスや乗合タクシーなどを指しますが、狭義では、「地域公共交通確保維持改善事業」の対象となる地域内のバス交通・デマンド交通等を示します。

<関係資料>

○補助制度説明資料

○事業評価シート、添付資料

地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金の概要について

1. 地域公共交通計画との関係性

地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金の交付を受けて補助対象系統の運行を確保・維持しようとする場合は、地域公共交通計画に必要事項を記載する必要がある。

2. 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金の概要

※次項参照（国土交通省公表資料）

3. 補助対象者

丹波篠山市公共交通会議

※補助金は、丹波篠山市公共交通会議の口座に一旦入り、
全額を株式会社ウイング神姫に支払い

4. 補助対象となる系統

- (1)草山温泉線（篠山口駅～西紀支所～草山温泉）
- (2)市原線①（篠山営業所～篠山警察署前・真南条上～市原）
- (3)市原線②（篠山営業所～真南条上～市原）
- (4)福住線（篠山口駅～篠山営業所・八上上町～福住）
- (5)柏原線①（篠山営業所～西紀支所～柏原駅）
- (6)柏原線②（篠山営業所～篠山鳳鳴高校・西紀支所～柏原駅）
- (7)柏原線③（篠山営業所～西紀支所・柏原駅～丹波医療センター）

- ※ (1)(4)は篠山口駅でJ R西日本福知山線と接続
- ※ (2)(3)は国道古市でJ R西日本福知山線と接続
- ※ (5)(6)(7)は柏原駅でJ R西日本福知山線と接続

5. 主な補助要件

地域公共交通計画に確保又は維持が必要として掲載されていることを前提として

- ①一般乗合旅客自動車運送事業者、一般乗用旅客自動車運送事業者、自家用有償旅客運送者による運行であること
- ②補助対象地域間幹線バス系統等に接続するフィーダー系統であること
- ③新たに運行を開始するもの又は公的支援を受けるものであること
- ④路線定期運行の場合、輸送量が2人／1回以上であること
- ⑤経常赤字であること

6. 補助の額

補助対象経費の2分の1

※補助対象経費：補助対象経常費用と経常収益の差額

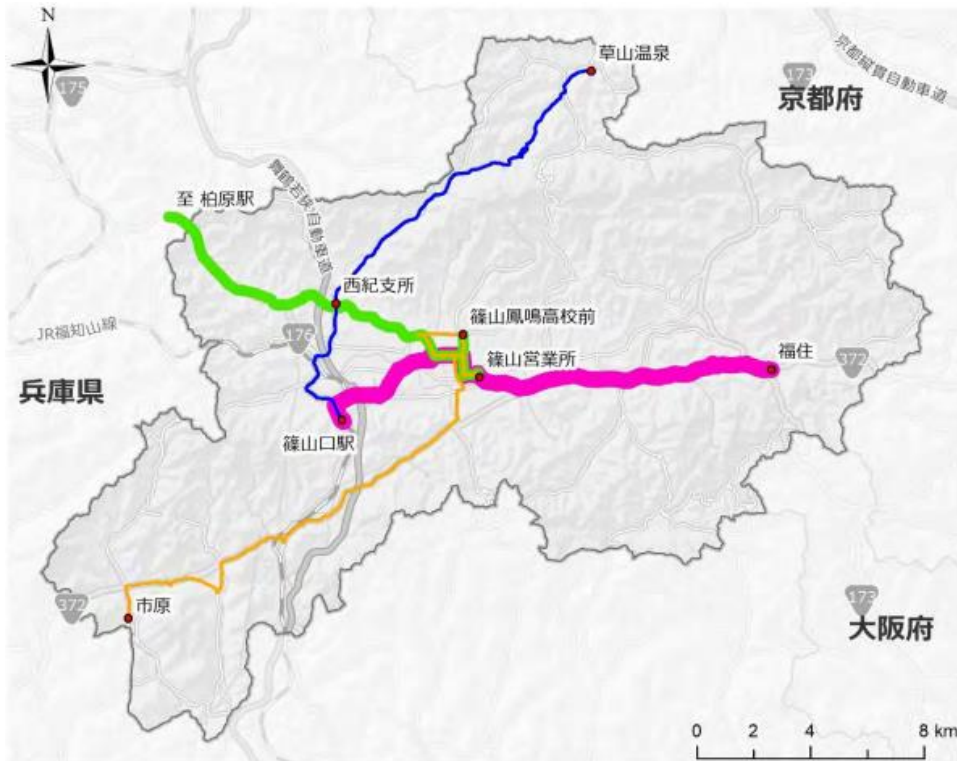
☆国庫補助交付申請額

7系統 5, 364千円

7. 計画の認定申請から補助金交付までのスケジュール

時期	内容
R 6. 6	計画認定申請
R 6. 1 0～R 7. 9	事業実施
R 7. 1 1	補助金交付申請
R 8. 1	計画事業評価
R 8. 2	補助金交付決定
R 8. 4	補助金交付

地域内フィーダー系統の事業評価対象系統の概要



凡例

- 篠山口駅～(西紀支所経由)～草山温泉
- 柏原～(西紀支所経由)～篠山営業所
- 篠山営業所～(城南小学校～国道古市経由)～市原
- 福住～(篠山営業所経由)～篠山口駅

位置づけ	バス系統
系統種別	地域内フィーダー系統
役割	丹波篠山市と隣接する南丹市、丹波市、三田市、加東市を結ぶ路線や篠山口駅、城下町から市内各地域を結ぶ路線で、通勤・通学の利用を中心に市民の日常生活を支える。
対象路線における路線維持や補助の必要性	<p>○篠山口駅～(西紀支所経由)～草山温泉 旧西紀町エリアから幹線NWへのアクセスとして機能。西紀小、西紀中の児童生徒の通学に利用されている。</p> <p>○柏原～(西紀支所経由)～篠山営業所 城下町から柏原駅を結ぶ系統。丹波医療センターへの通院や大山方面から市内高校への通学等に利用されている。</p> <p>○篠山営業所～(城南小学校～国道古市経由)～市原 今田方面から幹線NWへのアクセスとして機能。城南小の児童や今田方面から市内高校への通学に使用されている。</p> <p>○福住～(篠山営業所経由)～篠山口 福住方面から幹線NWへのアクセスとして機能。また、篠山東雲高の生徒の通学に利用されている。</p> <p>上記4路線については、今後も継続的に路線を維持する上で、交通事業者や県、市の努力のみでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持事業による運行の維持、確保が求められる。</p>
実施主体	株式会社 ウイング神姫
区分・運行態様	4条乗合・路線定期運行

地域公共交通確保維持事業（陸上交通：地域内フィーダーシステム補助）

地域特性や実情に応じた最適な生活交通ネットワークを確保・維持するため、幹線バス等の地域間交通ネットワークと密接な地域内のバス交通・デマンド交通の運行について支援。

補助内容

○ 補助対象事業者

地域公共交通活性化再生法に基づく協議会

※令和6年度まではバス事業者等も対象

○ 補助対象経費

補助対象系統に係る経常費用から経常収益を控除した額



○ 補助率

1/2以内

○ 主な補助要件

市町村等が定めた地域公共交通計画に確保又は維持が必要として掲載され、

- ・一般乗合旅客自動車運送事業者、一般乗用旅客自動車運送事業者、自家用有償旅客運送者による運行であること
- ・補助対象地域間幹線バス系統等に接続するフィーダー系統であること
- ・新たに運行を開始するもの又は公的支援を受けるものであること
- ・路線定期運行の場合、輸送量が2人/1回以上であること
- ・経常赤字であること

補助対象システムのイメージ



※専ら政令市等が運行支援を行うもの及びその運行区域の全てが政令市等の区域内であるものは除外

※交通不便地域は、地方運輸局長等が指定する地域

※乗用タクシーは、過去に乗合バス事業等による乗合旅客の運送を行っていた地域であって、乗用タクシー以外の輸送手段が無いと地方運輸局長が認めた地域に限る

丹波篠山市地域公共交通会議（ネットワーク全体の評価）

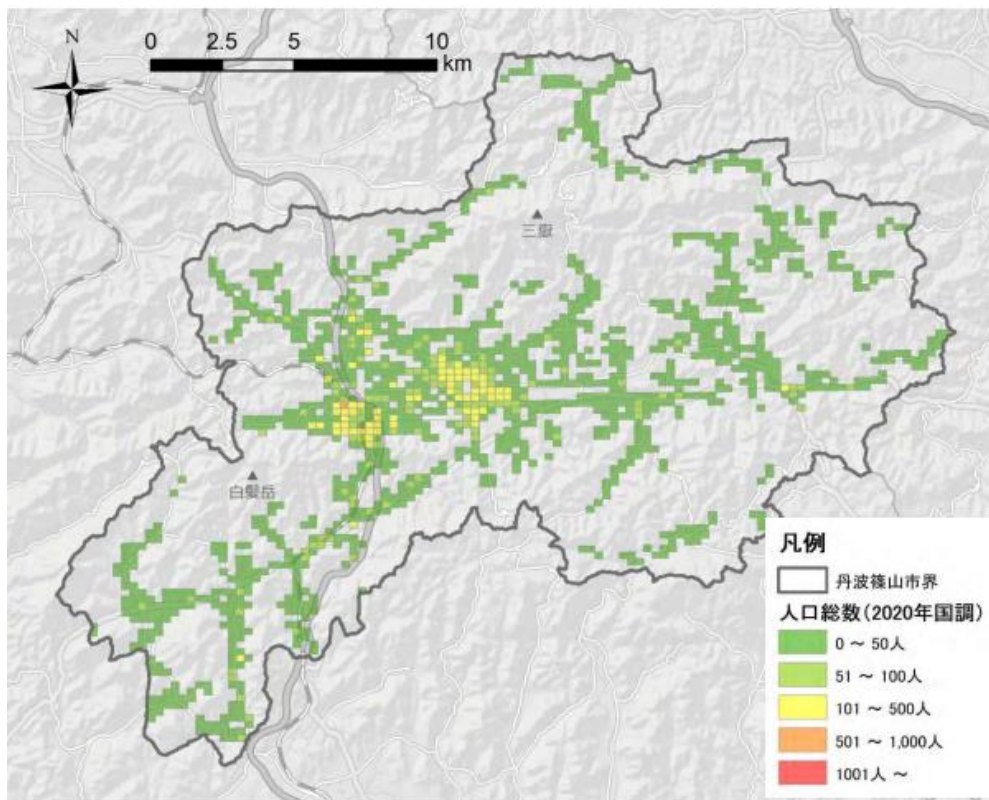
1. 協議会が目指す地域公共交通の将来像

公共交通の将来像

1. 地域特性

- ・人口 38,543 人（令和 7 年 11 月末現在）
- ・総面積は 377.59 平方キロメートル。東は京都府、西・北は丹波市・加東市、南は大阪府・三田市などに隣接
- ・多紀連山と深山山地に挟まれた盆地に市街地が形成
- ・城下町と篠山口駅周辺に人口が集中する一方で、周辺部にも集落が広がっており、広い範囲に市民が居住
- ・市域が広く、谷筋に集落が伸びていることから効率的な公共交通の運行が難しい
- ・郊外を中心に高齢化率が高く、65 歳以上の高齢者が占める割合が 40%以上となっている地域が拡大

<人口分布図（2020 年）>



2. 丹波篠山市地域公共交通計画（R6～R10 年度）

- ・基本理念

「一人ひとりが安心して暮らすことができる丹波篠山の地域公共交通」

・基本方針

【基本方針1】

地域特性や観光等の様々なニーズに応じた持続可能な地域公共交通網の再構築

【基本方針2】

地域公共交通の積極的な利用促進

【基本方針3】

地域公共交通を維持する主体が連携して取り組む公共交通対策事業

・将来ネットワーク

現在、市内を運行しているコミバスハートランや乗合タクシー等、地域公共交通の利用者が非常に少ない地域や、財政負担額の大きい地域公共交通を運行している地域においては、既存の地域公共交通からデマンド型乗合交通に置き換え、新しいサービスによる財政負担額の軽減と利用者の増加を目指します。

位置づけ	役割	形態	路線
地域公共交通	鉄道幹線	市域を超えて市民や観光客等の来訪者の広域的な移動を支える	鉄道 ・ JR 福知山線
	バス幹線	丹波篠山市と隣接する丹南市、丹波市、三田市、加東市を結ぶ路線や篠山口駅、城下町から市内各地域を結ぶ路線で、通勤・通学の利用を中心に市民の日常生活を支える	路線バス ・ 篠山口駅～篠山営業所 ・ 篠山口駅～草山温泉 ・ 篠山営業所～柏原駅 ・ 篠山営業所～藍本駅 ・ 篠山営業所～福住方面 ・ 住吉台循環線 ・ 篠山鳳鳴高校・篠山産業高校スクールバス ・ 相野駅～清水寺 ・ 園篠線(京阪京都交通株)
	地域内ネットワーク	市内各地域の居住エリアから市内拠点・主要拠点を結ぶ交通モードで市民の日常生活や観光目的の移動を支える	一般乗合 市町村運営有償旅客運送 デマンド型乗合交通

	個別送迎	個々の需要に対応し、市民の日常生活や観光目的の移動を支える	一般乗用	一般タクシー
その他	目的別送迎	特定の目的に対応し、日常生活や観光目的での移動を支える	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールバス ・福祉有償運送 ・グリーンスローモビリティ ・レンタサイクル 	

公共交通ネットワークのイメージ図

※別添で添付して下さい。

2. 目標設定及びその達成状況の評価に関する事項

・数値目標				
目標			現状値	目標値
目標 1	地域公共交通の利用者数	鉄道	6,348 (人/日)	7,900 (人/日)
		(株)ウイング神姫	927 (人/日)	1,100 (人/日)
		京阪京都交通(株)	15.4 (人/日)	20.0 (人/日)
		市町村運営有償運送	17.9 (人/日)	18.0 (人/日)
		デマンド型乗合交通	-	18.0 (人/日)
目標 2	公共交通対策事業に投じる費用	93,789 (千円/年)	140,000 (千円/年) 以下	
目標 3	補助金を出している路線の収支率改善	34.9(%)	現状維持	

3. 目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容

(1) 取組経緯

1. 公共交通に対する支援について

市民、交通事業者、行政が連携し、持続的で効率的かつ効果的な地域公共交通サービスの提供を目指すため補助を実施

令和6年度

●コミュニティバス運行補助金	27,201,000円
●バス路線活性化支援助成金	26,600円
●市単独バス対策等補助金	38,894,000円
●乗合タクシー運行助成金	1,244,100円
●上限運賃制事業補助金	24,187,320円
●公共交通ドライバー確保奨励金	150,000円

2. 新たな地域内交通の導入について

●デマンドバス「のり～な」

地域を支える公共交通の新たな交通サービスとして、令和6年11月1日より市東部地域においてデマンドバス「のり～な」の運行を開始。令和7年10月28日に市西部地域に運行エリアを拡大。

デマンドバスは、従来の路線バスやコミュニティバスと異なり、決まった時刻表やルートはなく、予約状況に応じて最適な経路で運行するバスとタクシーの中間的な交通サービス。

・運行地域

福住、日置、村雲、雲部、岡野、畑、城北（令和6年11月1日～）

城南、八上、大山、西紀南、味間、古市、今田（令和7年10月28日～）

3. モビリティマネジメントの実施

大谷大学の野村ゼミと連携し、地域公共交通の利用を促進することを目的としてデマンドバス、市町村運営有償旅客運送においてモビリティマネジメントを実施。

(1) 路線バス乗車体験会

福住地区から城下町までの乗車体験会を実施。ワークショップでお出かけカードを作成し、バスを使った外出のハードルを下げる仕掛けづくりを行った。参加者には神姫バスで発行している Nicopa カードを配布した。

(2) デマンドバス乗車体験会

福住地区においてデマンドバス試乗会を計 3 回実施。予約方法からスマホの使い方までレクチャーした。3 回目は乗り継ぎ体験会として、デマンドバスと路線バスを乗り継ぎ城下町までの移動を体験してもらった。参加者にはデマンドバスで利用できる回数券 2,200 円分を配布した。

(3)市町村運営有償旅客運送乗車体験会

大芋地区有償運送「にこにこ号」の乗車体験を実施。大芋地区から城下町まで移動し、ワークショップを行った。参加者には「にこにこ号」で利用できる回数券 2,200 円分を配布した。

(2) 目標を達成するために行う事業・実施主体・事業概要等

補助対象事業

地域公共交通確保維持改善事業				
事業	実施主体	着手・実施期間	種別	事業概要
地域内フィーダー系統確保維持補助事業	丹波篠山市	R6.10月 ～R7.9月	フ	対象地域の生活路線を継続的に維持する。

【種別】 幹：地域間幹線系統、フ：地域内フィーダー系統、策：計画策定事業、利策：利便増進計画策定事業、利推：利便増進計画推進事業、継策：運送継続計画策定事業、継推：運送継続計画推進事業

その他補助事業			
事業	実施主体	着手・実施期間	事業概要
バス路線活性化支援補助成事業	丹波篠山市	R26～	路線バス等の乗車券購入に要する経費に対し、助成金を交付し、市内の路線バス等の維持確保及び利用増進を図る。
上限運賃制度	丹波篠山市	R3～	ウイング神姫路線バス及びコミバスにおいて、神姫バス発行のニコパカードで支払いを行うことで上限運賃 200 円が適用される。
ドライバー確保奨励金	丹波篠山市	H5～	地域公共交通を担う人材確保のため、市内に営業所のあるバス、タクシーのドライバーとして新たに就職された市内在住者に奨励金を交付。

非補助事業

事業	実施主体	着手・実施期間	事業概要
丹波篠山市公共交通ガイド（まるいのナビ）作成業務	丹波篠山市	H24～	市内の公共交通情報を網羅したガイドを作成し、公共交通機関の利用を促進する。
市町村運営有償旅客運送運行業務委託	丹波篠山市	R3～	交通空白地の解消を目指し、市町村運営有償旅客運送（公共ライドシェア）を運行。 ○運行地区 ・大芋、後川、西紀北、西紀中、村雲（村雲地区は令和6年に運行終了）
ニコパカード販売	丹波篠山市	R3～	神姫バスが発行しているニコパカードを市役所と各支所で販売し、路線バス利用を促進。
中学生ニコパカード配布事業	丹波篠山市	R4～	市内高校の活性化や地域公共交通の確保維持のため市内中学校3年生にニコパカードを配布。
デマンドバス導入業務	丹波篠山市	R6～	交通空白地の解消を目指し、デマンドバスを導入。 ○運行地区 ・福住、日置、村雲、雲部、畑、城北（令和6年～） ・八上、岡野、西紀南、大山、味間西、城南、古市、今田

（3）生産性向上の視点から取り組んだ事業

※「（2）目標を達成するために行う事業・実施主体・事業概要等」のうち、生産性向上を目指して取り組んだ事業について、その内容を記入して下さい。

※上記以外の事業においても、該当する事業・取組等があれば、その内容を記入して下さい。

事業	取組内容	効果目標
上限運賃制度	ウイング神姫路線バス及びコミバスにおいて、神姫バス発行のニコパカードで支払いを	路線バス利用者数の増加

	行うことで上限運賃 200 円が適用される。	
ドライバー確保 奨励金	地域公共交通を担う人材確保のため、市内に営業所のあるバス、タクシーのドライバーとして新たに就職された市内在住者に奨励金を交付。	ドライバーの人材確保
丹波篠山市公共交通ガイドブック（まるいのナビ）作成業務	ガイドブックを毎年年度初めに全戸配布し、最新の公共交通情報を周知。	公共交通利用者数の増加
市町村運営有償旅客運送運行業務委託	大学と連携したモビリティマネジメントで乗車体験会を実施。	公共交通利用者数の増加
ニコパカード販売	以前はウイング神姫の営業所でのみの販売であったが、市役所と各支所で購入できる環境を整えた。	公共交通利用者数の増加
中学生ニコパカード配布事業	市内高校の活性化や地域公共交通の確保維持のため市内中学校3年生にニコパカードを配布。	市内高校の活性化、公共交通利用者数の増加
デマンドバス導入業務	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者数が低迷していたコミュニティバス、乗合タクシー、一部市町村運営有償旅客運送を休止し、デマンドバスに一本化。 ・交通結節点での乗継割引の適用。 ・自治会の集会や福社会議などで説明会を実施。 ・「個別出張サポート」による利用方法の周知。 ・大学と連携したモビリティマネジメントで乗車体験会を実施。 	公共交通の利便性向上、公共交通利用者数の増加

4. 具体的取組に対する評価

鉄道利用

現状値	令和 6 年度	目標値
6,348 (人/日)	6,964 (人/日)	7,900 (人/日)

(株) ウイング神姫

現状値	令和 6 年度	目標値
927 (人/日)	949 (人/日)	1,100 (人/日)

令和 3 年度から上限運賃制を導入したことにより、利用者数が増加している。デマンドバスで交通結節点での乗継割引を導入して以降、交通結節点からの乗車が増加しているので、乗継割引を周知し路線バス利用者の増加につなげる。

京阪京都交通

現状値	令和 6 年度	目標値
15.4 (人/日)	18.9 (人/日)	20.0 (人/日)

京都方面まで通勤通学目的で利用されている重要な路線であり、今後も乗車券に対する助成事業を実施し、利用者の増加に努める。

市町村運営有償旅客運送

現状値	令和 6 年度	目標値
17.9 (人/回)	17.2 (人/回)	18.0 (人/回)

利用者は減少傾向にあるが、交通空白地を補完する重要な公共交通であるため、大学と連携したモビリティマネジメントを通じて利用者増加に努める。

デマンド型乗合交通

現状値	令和 6 年度	目標値
-	9.5 (人/日)	18.0 (人/日)

令和 6 年 11 月に市東部地域に導入し、令和 7 年 10 月に市西部地域での運行を開始した。利用者数は右肩上がりに増加しており、交通結節点での乗継割引を導入し、デマンドバスと既存の交通機関の利用を促している。

公共交通対策事業に投じる費用

現状値	令和 6 年度	目標値
93,789 (千円/年)	160,287 (千円/年)	140,000 (千円/年) 以下

令和 6 年度はデマンドバスを導入したことにより費用が大きく増加した。今後もデマンドバス運行に係るランニング費用や人件費・燃料費等の費用高騰による費用の増大など公共交通対策事業費に投じる費用は増加していくことが予想される。現状の公共交通サービスを維持しつつ、費用を抑制できるよう事業の見直しを実施していく。

補助金を出している路線の収支率改善

現状値	令和6年度	目標値
34.9 (%)	31.2 (%)	現状維持

5. 自己評価から得られた課題と対応方針

課 題	課題への対応方針
高齢化による免許返納や運転手不足、人件費・燃料費高騰による減便などにより、移動困難者が増加することが予想される。公共交通を維持継続していくために限られた資源を有効活用し、効率的な公共交通網を目指す必要がある。	地域公共交通は移動手段の一つであり、買い物や通院などの日常の活動に必要な不可欠なものである。関係各所と連携し、地域公共交通の向上や更なる活用について恒常的に検討・実践する。

丹波篠山市地域公共交通会議（これまでの経緯）

1. 昨年まで（直近）の二次評価の活用・対応状況		
昨年まで（直近）の二次評価における事業評価結果	事業評価結果の反映状況（具体的対応内容）	今後の対応方針
該当なし		

2. アピールポイント、特に工夫した点など
該当なし

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画に基づく事業)

令和 年 月 日

協議会名:丹波篠山市地域公共交通会議

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
(株)ウイング神姫	草山温泉線	令和6年3月に策定した丹波篠山市地域公共交通計画において、当該路線を事業対象バス路線として位置付けた。関係者と意見交換を行いながらニーズに応じた公共交通の移動確保維持に向けて検討している。	A 主に通学利用に加えて、生活利用にも寄与することができた。	A 利用者数の目標値33,000人以上に対して実績値38,914人となり目標を達成した。	市内の公共交通利用者は依然として少ない。あらためて公共交通の利便性を周知し、試乗会やモビリティマネジメントを通して自家用車から公共交通への転換を図る。
(株)ウイング神姫	市原線①	令和6年3月に策定した丹波篠山市地域公共交通計画において、当該路線を事業対象バス路線として位置付けた。関係者と意見交換を行いながらニーズに応じた公共交通の移動確保維持に向けて検討している。	A 主に通勤や通学利用に加えて、生活利用にも寄与することができた。	B 利用者数の目標値17,900人以上に対して実績値15,606人となり、達成率87.2%と目標を達成できなかったが、移動確保維持に努めた。通学路線として利用されているため引き続き維持に努める。(※目標値は市原線の合計数)	市内の公共交通利用者は依然として少ない。あらためて公共交通の利便性を周知し、試乗会やモビリティマネジメントを通して自家用車から公共交通への転換を図る。
(株)ウイング神姫	市原線②	令和6年3月に策定した丹波篠山市地域公共交通計画において、当該路線を事業対象バス路線として位置付けた。関係者と意見交換を行いながらニーズに応じた公共交通の移動確保維持に向けて検討している。	A 主に通勤や通学利用に加えて、生活利用にも寄与することができた。	B 利用者数の目標値17,900人以上に対して実績値15,606人となり、達成率87.3%と目標を達成できなかったが、移動確保維持に努めた。通学路線として利用されているため引き続き維持に努める。(※目標値は市原線の合計数)	市内の公共交通利用者は依然として少ない。あらためて公共交通の利便性を周知し、試乗会やモビリティマネジメントを通して自家用車から公共交通への転換を図る。
(株)ウイング神姫	福住線	令和6年3月に策定した丹波篠山市地域公共交通計画において、当該路線を事業対象バス路線として位置付けた。関係者と意見交換を行いながらニーズに応じた公共交通の移動確保維持に向けて検討している。	A 主に通勤や通学に加えて、生活利用についても幅広い時間帯において寄与することができた。	B 利用者数の目標値11,000人以上に対して実績値10,923人となり、達成率99.3%と目標を達成できなかったが、移動確保維持に努め、利用者数が増加した。	市内の公共交通利用者は依然として少ない。あらためて公共交通の利便性を周知し、試乗会やモビリティマネジメントを通して自家用車から公共交通への転換を図る。
(株)ウイング神姫	柏原線①	令和6年3月に策定した丹波篠山市地域公共交通計画において、当該路線を事業対象バス路線として位置付けた。関係者と意見交換を行いながらニーズに応じた公共交通の移動確保維持に向けて検討している。	A 丹波医療センターへアクセスする貴重な路線であるとともに、生活利用についても寄与することができた。	A 利用者数の目標値8,600人以上に対して実績値9,684人となり、目標を達成した。(※目標値は柏原線の合計数)	市内の公共交通利用者は依然として少ない。あらためて公共交通の利便性を周知し、試乗会やモビリティマネジメントを通して自家用車から公共交通への転換を図る。
(株)ウイング神姫	柏原線②	令和6年3月に策定した丹波篠山市地域公共交通計画において、当該路線を事業対象バス路線として位置付けた。関係者と意見交換を行いながらニーズに応じた公共交通の移動確保維持に向けて検討している。	A 丹波医療センターへアクセスする貴重な路線であるとともに、生活利用についても寄与することができた。	A 利用者数の目標値8,600人以上に対して実績値9,684人となり、目標を達成した。(※目標値は柏原線の合計数)	市内の公共交通利用者は依然として少ない。あらためて公共交通の利便性を周知し、試乗会やモビリティマネジメントを通して自家用車から公共交通への転換を図る。
(株)ウイング神姫	柏原線③	令和6年3月に策定した丹波篠山市地域公共交通計画において、当該路線を事業対象バス路線として位置付けた。関係者と意見交換を行いながらニーズに応じた公共交通の移動確保維持に向けて検討している。	A 丹波医療センターへアクセスする貴重な路線であるとともに、生活利用についても寄与することができた。	A 利用者数の目標値8,600人以上に対して実績値9,684人となり、目標を達成した。(※目標値は柏原線の合計数)	市内の公共交通利用者は依然として少ない。あらためて公共交通の利便性を周知し、試乗会やモビリティマネジメントを通して自家用車から公共交通への転換を図る。

事業実施と地域公共交通計画との関連について

令和 年 月 日

協議会名:	丹波篠山市地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>丹波篠山市は、兵庫県の中西部に位置し総面積は377.59平方キロメートル、人口 38,543人(令和7年11月末現在)である。</p> <p>昭和 62(1987)年の舞鶴自動車道(現在の舞鶴若狭自動車道)の開通や平成9(1997)年の JR 福知山線の篠山口駅までの複線電化によって、都市圏である大阪・神戸から約1時間で移動することが可能となった。</p> <p>公共交通利用者数は令和2(2020)年度以降、回復の兆しはあるものの、長い期間で見ると年々減少傾向にあり、自動車中心社会であることや人口減少の観点から利用者数の増加は難しいことが想定される。公共交通事業者と連携しながら持続可能な交通ネットワークを構築し、地域公共交通を維持していく必要がある。</p>